



鶴ヶ島保育所

Q

保育所の現状と 今後の展望について

こばやし
小林ひとみ 議員



A

中長期的な視点で適切な利用定員の 管理を行う

問 保育所の入所者数の推移と今後の見込みについて。

答 国定義の待機児童数は、平成26年度から9年連続でゼロを達成している。今後、児童数は減少するものの、女性の就業率の上昇に伴い、保育のニーズは微増し、当面は入所児童が利用定員を上回る状況が続くと予測している。

問 保育の質の向上と保育士確保のための取組について。

答 優秀な人材の確保と保育環境の充実が必要である。その取組として、民間保育所などの保育士の処遇改善が必要と考える。そのため、民間保育所などに一月当たり160時間以上勤務する職員を対象に、一人月額1万円の単独補助を行っている。

問 保育所の今後の課題は。

答 中長期的な視点で適切な利用定員の管理を行うことである。国は、保育所の利用児童が2025年にピークを迎えると試算しており、今後の保育の提供の在り方などを検討している。国の動向などを注視しつつ、児童数と保育ニーズを的確に把握し、適切に利用定員を管理する。

◎その他の質問

一 がん検診の現状と取組
二 带状疱疹の予防接種について

Q

行政と市民ボラン ティアの連携、協働

うちの
内野 嘉広 議員



A

市民活動が継続、拡大されるよう 支援していく

問 行政課題と市民ボランティアの活動について。

答 現在の社会・経済情勢の中、自治体として存続・持続していくのは、コンパクトな行政運営を行うことが必要不可欠である。地域活動団体や市民活動団体は、地域においてきめ細やかな対応ができるという特長を生かし、

ボランティアとして多岐にわたる行政課題の解決に向けた活動を行っていただいている。

問 市民ボランティアの支援体制について。

答 今年度から市民センターの業務に「市民活動の支援に関すること」を追加した。地域活動団体や市民センター利用団体だ



グリーンパーク周辺のボランティア活動

けでなく、市民活動団体とのつながりを促進することにより、担い手の育成及び発掘、新たな活動の展開などを支援していく。
問 太田ヶ谷の森などにおけるボランティアとの連携、協働の促進について。

答 現在、太田ヶ谷の森では、地元自治会や環境団体で組織された太田ヶ谷の森グラウンドワークなどの皆様による除草や草花による景観づくりなどのボランティア活動が行われている。団体と定期的に会議を開催し、活動範囲及び内容を調整し、連携して進めている。